地域の目 Series 34

「(仮称)イオンモール 北中城」東南アジアを代表するリゾートモールを目指して

イオンモール株式会社
代表取締役社長 岡崎双一

沖縄に仕事に行くと言うとほぼ全ての人から「いいですね」と言われる。『青い空・青い海・白い雲』本土の人間の憧れの地である。さらに北中城村アワセゴルフ場跡地に立つといつも、柔らかい日差しを受け、やさしい風が頬をなでる。先の大戦前にこの地に住んでいた街の方々を想像する。きっと柔和で、屈託のない笑顔で日々の生活を送っていたのかな…

イオンモール株式会社の出店を正式に決定していただけたのはアワセゴルフ場の返還が決まった2008年であった。330名の地権者様にとって先祖伝来の大切な土地が、自らの手に戻ることが決まり、土地活用についてそれぞれの地権者様の夢があるはずだ。今までと同じショッピングモールで良いはずがない。現地を何回となく訪れ、何百枚とプランを書き直した。ようやく定まったのは『リゾートモール』というコンセプト。

那覇空港に降り立つときいつも感じる空気感、沖縄は東南アジアの一部と考えた方が気候風土を理解しやすい。改めて世界地図を見ると、東南アジアから一番近い日本である。「東南アジアの方々に来ていただけるリゾートショッピングモールを作ろう！」

沖縄は島全体がエメラルドに輝く青い海に囲まれ、自然や歴史遺産が豊富にある。首里城を代表として世界遺産に指定されている「琉球王国のグスク及び関連遺産群」、シンベイザメとマンタが悠然と泳ぐ「沖縄ちゅら海水族館」、本島にありながら貴重種のヤンバルクイナが生息する「ヤンバルの森」、島全体の90%が亜熱帯植物に覆われイリオモテヤマネコが静かに生息する「西表島」、その他の「石垣島」、「竹富島」、「小浜島」など大小の離島にも思いが馳せる。

しかしながら、世界を代表するリゾート地「ハワイ」「ドバイ」等と比較すると不足している要素が一つある。それは「ショッピング」の要素である。

ハワイにはアラモアナショッピングセンターだけでなく複数のショッピングセンターがありそれぞれが特徴を出して競い合い、魅力あるショッピングセンターに成長していった。かつて日本人はハワイに行けば必ずアラモアナショッピングセンターに行って買い物をするのが定番であり、そこで買い物をすることがステータスとなった。

沖縄県が平成24年5月に策定している「第5次沖縄県観光振興基本計画」では平成33年度（2021年度）を目標として1,000万人の観光客を誘致し、その内の200万人は中国・香港・台湾・韓国を中心とした東南アジアや欧米・ロシア等の海外から誘客するとしている。沖縄県は明確に東南アジアを代表するリゾート地を目指しているのである。幸い弊社は、東南アジアに積極的に出店をしており、出店地の国々から多数のお客様を沖縄に送り込むことができる。重ねて、東南アジア他の国から沖縄に来られた方々に対して、ショッピングできる場所を提供し、沖縄ショッピングを存分に満足していただけることも可能だ。

なお、ショッピングモールは労働集約型産業であり、弊社の現段階の計画では約3,000名の新規雇用が発生する。北中城村や沖縄市等中部圏域にお住まいの方を中心に、一緒に汗をかきながら「リゾートモール」を作り上げていければ本望である。当然、国内外から来る観光客に育てられることも言うまでもない。

さて、観光客が楽しみにしているのは、沖縄の食・沖縄発のリゾートウェアの他に沖縄発の芸能である。県民の皆様一人ひとりがアーティストであるので、県民の皆様の誰もが個性的な芸能を発表できる場を作り、それを観光客が見に来るあるいは参加しに来るステージを提供し、県民の皆様と観光客が交流し、交流のエネルギーが溢れ出す。そんな場にしていきたいと思っている。弊社のショッピングモールを磁石として観光客を引き付けた後は、県内各地に観光客が回遊する仕組を配置してまいりたい。

例えば、観光客に対して旅の手配や沖縄のディープな情報を提供する「観光コンシェルジュ」によって観光地や地元の優れた名店を紹介し、それらを巡るバスの起終点を設置したりすることが可能だ。しかしながら、これらのことをしようにも弊社だけではできない。県民の皆様と一緒になって知恵を出し合いながら前に進めてまいりたい。

「東南アジアを代表するリゾート地にする。」夢のある仕事、通常の仕事であれば大変であり疲れるが、今回はかつてない幸せな仕事だと思っている。しかも、沖縄には燦燦と輝く太陽のように、疲れが吹き飛ぶパワーが満ちあふれている。今から2015年の開業が楽しみになってきた。